

令和3年3月19日

乳幼児のたばこの誤飲に注意しましょう！

－加熱式たばこは紙巻たばこより誤飲しそうなった割合が高く、
より注意が必要です－

家庭内における、乳幼児のたばこの誤飲実態を把握するため、消費者庁でアンケート調査を実施しました。

【調査結果のポイント】

- ・保護者が喫煙する家庭の2割で、乳幼児がたばこや吸い殻を口に入れた又は入れそうになったことがある
- ・乳幼児が誤飲しそうなった割合は、加熱式たばこの方が高かった
- ・誤飲しそうなった年齢は0～2歳が多い
- ・3割近くの家庭でたばこや灰皿が乳幼児の手の届く所に置かれている
- ・約5割の保護者が乳幼児の前で喫煙している
- ・テーブルの上のたばこや灰皿にあった吸い殻を口にしている乳幼児が多い

子どもが誤ってたばこを食べたり、ニコチンが溶け出した液体を飲んだりすると中毒を起こす危険性があります。子どもがたばこや吸い殻を誤飲することがないよう、周囲の大人が以下の点に注意することが必要です。

【アドバイス】

- (1) 家では禁煙を心掛け、子どもの目の前でたばこを吸わないようにしましょう。
 - (2) 子どもの手の届く場所にたばこや灰皿などを置かないようにしましょう。
 - (3) 飲料の缶やペットボトルを灰皿代わりに使用することはやめましょう。
- ※ たばこが浸っていた液体を飲んだ場合、普段と違う様子がある場合は、何も飲ませず、直ちに医療機関を受診しましょう。

1. たばこの種類

いわゆるたばこ（紙巻たばこ）に対して、近年、加熱式たばこなどの新しいタイプのたばこが発売されています。

「加熱式たばこ」とは、「たばこ葉を使用し、たばこ葉を燃焼せずに、加熱等によって発生する蒸気（たばこペーパー）を愉しむ製品です。たばこ葉を燃やさないため、燃焼による煙や副流煙は発生せず、また灰も出ません。」とされています。似た製品として電子たばこがありますが、「電子たばこ」は「たばこ葉を使用せず、装置内もしくは専用カートリッジ内の液体（リキッド）を電気加熱し、発生する蒸気（ペーパー）を愉しむ製品です¹。」とされています。つまり、たばこの葉を使用しているのが「紙巻たばこ」と「加熱式たばこ」であり、たばこの葉を使用していないのが、「電子たばこ」と区分されています（図1）。

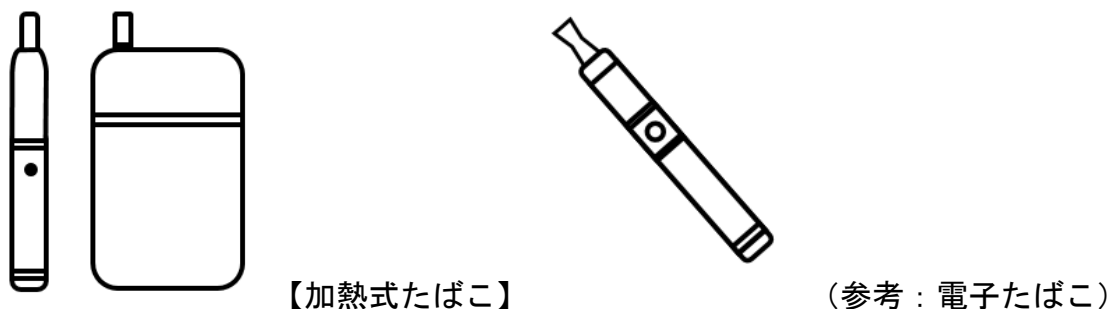


図1 加熱式たばこ（左）と電子たばこ（右）の例

一般社団法人日本たばこ協会によると、紙巻たばこの販売実績は、令和2年4月～12月の累計で767億本となっています。一方、加熱式たばこは令和2年4月～12月の累計で308億本と、紙巻たばこの約4割に当たります²。

独立行政法人国民生活センターが2017年に実施した、当時販売されていた加熱式たばこを対象としたテストによると、

- ① テスト対象の3タイプ12銘柄全てが子どもの誤飲し得る形状で、かつ、12銘柄中9銘柄は、子どもの口腔内に容易に収まるサイズだった
 - ② 全ての銘柄で、1本分のたばこ葉には嘔吐を引き起こすおそれのある量のニコチンが含まれていた
- との結果が発表されています³。

2. たばこの誤飲に関する実態調査

家庭内における、乳幼児のたばこの誤飲の実態を把握するため、アンケート調査を行いました。

¹ 一般社団法人日本たばこ協会ウェブサイト「加熱式たばこの関連情報」
<https://www.tioj.or.jp/others/heated.html>（令和3年3月12日最終閲覧）から引用。

² 一般社団法人日本たばこ協会ウェブサイト「たばこに関するデータ」
<https://www.tioj.or.jp/data/index.html>（令和3年3月16日最終閲覧）を参考に記載。

³ 独立行政法人国民生活センター「乳幼児による加熱式たばこの誤飲に注意」（平成29年11月16日）
http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20171116_2.html

実施期間：令和3年1月29日（金）～1月31日（日）

調査方法：インターネット調査

調査対象：有効回答者数 500 人

全国の 20～60 歳代を対象に、0～6 歳の子どもと同居しており、
現在たばこを喫煙する人を抽出。

（１）たばこの喫煙状況

紙巻たばこの喫煙者が 340 人、加熱式たばこの喫煙者は 253 人でした（複数回答）
（図 2）。さらに、たばこの種類の喫煙状況を見ると、紙巻たばこと加熱式たばこの
両方を喫煙する人は全体の約 2 割の 104 人でした（図 3）。以下、喫煙者の多い紙巻
たばこと加熱式たばこを対象に調査を進めました。

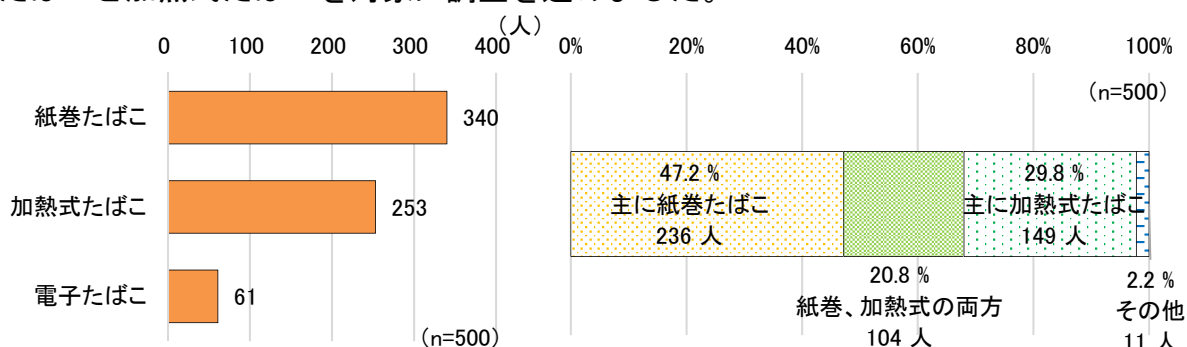


図 2 喫煙するたばこの種類（複数回答）

図 3 たばこ製品の組合せの状況

（２）たばこを誤飲しそうになった経験

子どもが「口に入れたことがある」と「入れかけたことがある」を合わせると、た
ばこでは 94 人、吸い殻では 82 人の回答がありました。たばこか吸い殻のいずれかを
誤飲しそうになった子どもは 100 人と、全体の 2 割に当たります。

さらにたばこのタイプ別で見ると、たばこ、吸い殻いずれにおいても、加熱式たば
この方が高いことが分かりました（図 4）。

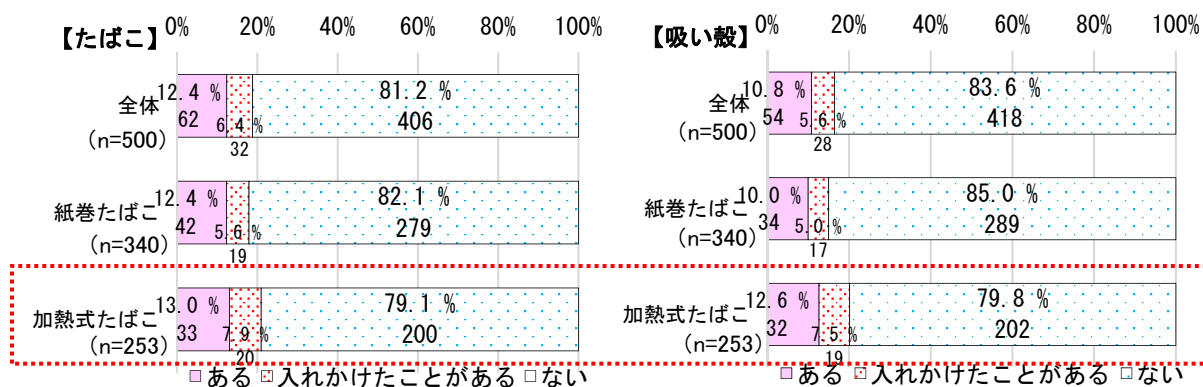


図 4 誤飲しそうになった経験 たばこ（左） 吸い殻（右）

誤飲しそうになった年齢が分かる 94 人を見ると、1 歳が 34 人と最も多く、2 歳 27 人、0 歳 20 人と続き、2 歳以下が多いことが分かりました（複数回答）（図 5）。

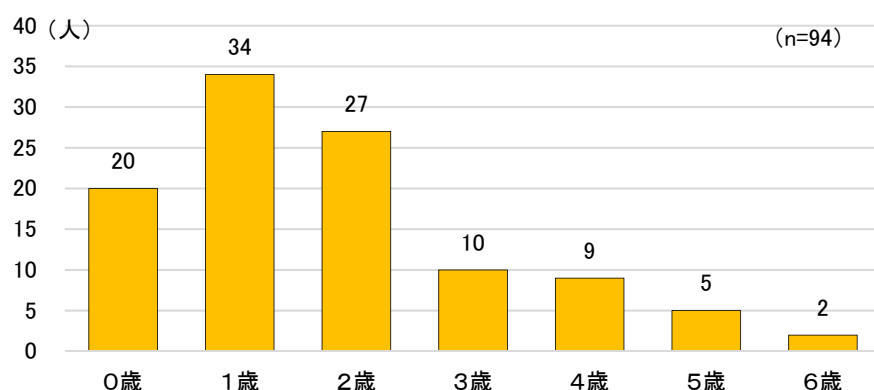


図 5 誤飲しそうになった年齢（複数回答）

（3）たばこの吸い殻の処理状況

全対象者 500 人に対して、自宅での吸い殻の捨て場所を問うと、紙巻たばこでは灰皿が 249 人と缶（たばこの吸い殻専用）や携帯用灰皿の約 4 倍程度多くなっていました。一方、加熱式たばこでは灰皿が 98 人と最も多いのは同様ですが、今吸っている箱の空きスペース 70 人、リビングや自室のごみ箱 50 人、台所のごみ箱 47 人も目立ちます（複数回答）（図 6）。ごみ箱に捨てると回答した人にその時の捨て方を更に質問したところ、そのまま捨てるという人が、加熱式たばこでは 60 人（71%）と紙巻たばこ 14 人（44%）より割合が高くなっていました（図 7）。加熱式たばこは火を使っていないことで、捨てる場所や捨て方が紙巻たばことは異なることが分かりました。

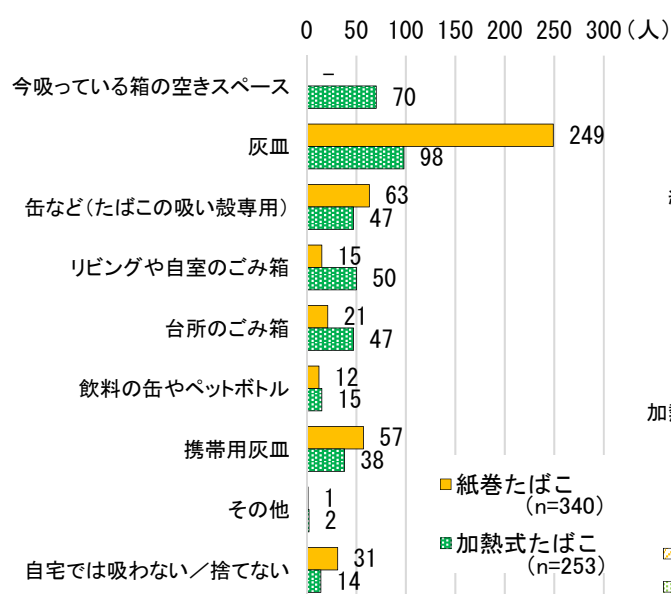


図 6 自宅での吸い殻の捨て場所（複数回答）

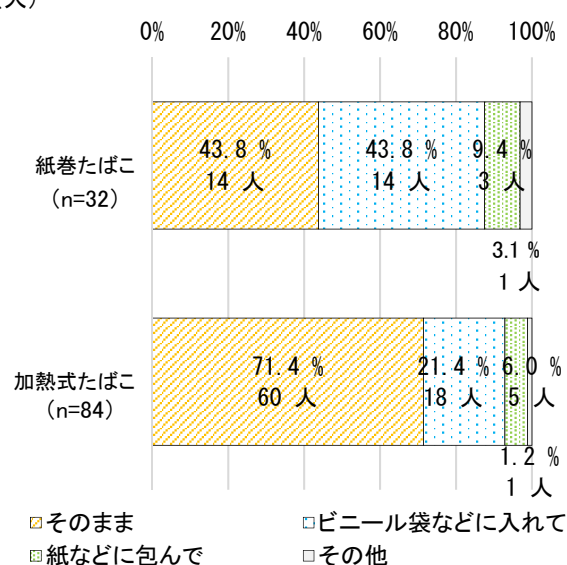


図 7 ごみ箱に捨てる際の捨て方

(4) 子どもに対する配慮

たばこや灰皿の置き場所についての質問では、子どもの手の届くところに置いている 64 人 (13%)、時々置いている 70 人 (14%) と、合わせると 3 割近くで子どもの手の届く場所にたばこが置かれていることが分かりました (図 8)。また、喫煙場所についての質問では、子どもの前で吸っている 82 人 (16%)、時々吸うことがある 160 人 (32%) と、合わせて半数近くの保護者が子どもの前で喫煙していることが分かりました (図 9)。さらに、たばこのタイプ別に見ると、加熱式たばこの方が子どもの手の届く場所に置かれたり、子どもの前で吸われている傾向にありました。

たばこや灰皿を子どもの手に届くところに置かないようにしているか？

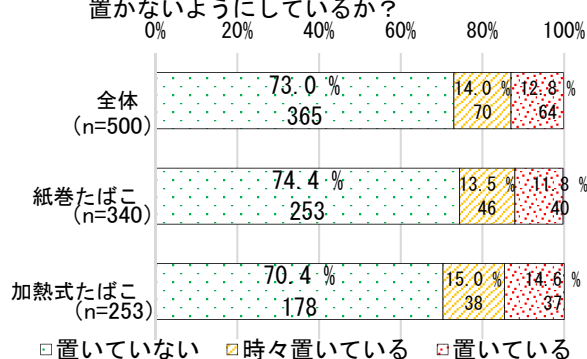


図 8 たばこや灰皿の置き場所

子どもの前でたばこを吸うことがあるか？

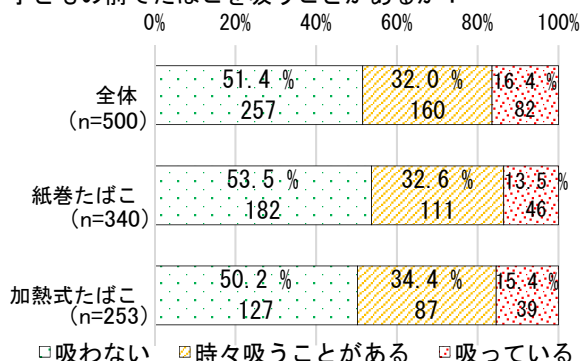


図 9 たばこの喫煙場所

(5) たばこを誤飲しそうになった状況

誤飲しそうになったたばこの置いてあった場所を見ると、テーブルの上が 69 人と最も多く、衣服のポケット 15 人や棚の上などの高い所 14 人などは少ないながらも回答がありました (複数回答) (図 10)。同じく、誤飲した吸い殻の置いてあった場所は、灰皿が 47 人と最も多く、リビングや自室のごみ箱 19 人、吸い殻専用の缶など 16 人となっていました。飲料の缶やペットボトルの中に捨てられた吸い殻を口にしてしまった、という回答も 5 人見られました (複数回答) (図 11)。

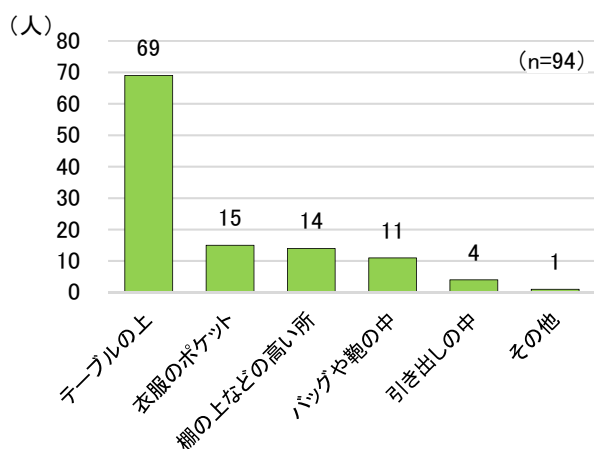


図 10 たばこの置き場所 (複数回答)

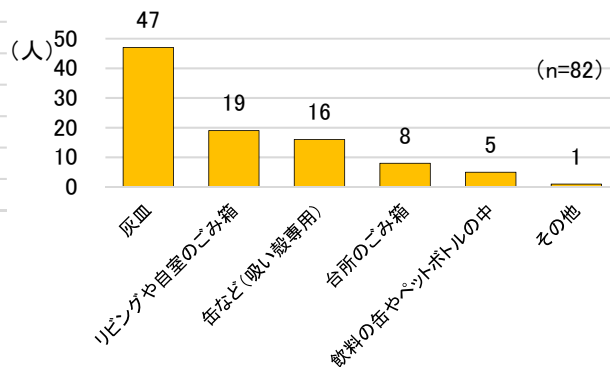


図 11 吸い殻の置き場所 (複数回答)

たばこを誤飲しそうになった時の処置を見ると、そのまま様子を見たというのは 27 人でした。医者に連れて行った 35 人、救急車を呼んだ 14 人と、合わせて半数近くが医療機関を受診していました。また、公益財団法人中毒情報センターはインターネットで調べた 14 人、電話で相談した 10 人、合計 24 人と問合せ先として目立ちました（複数回答）（図 12）。

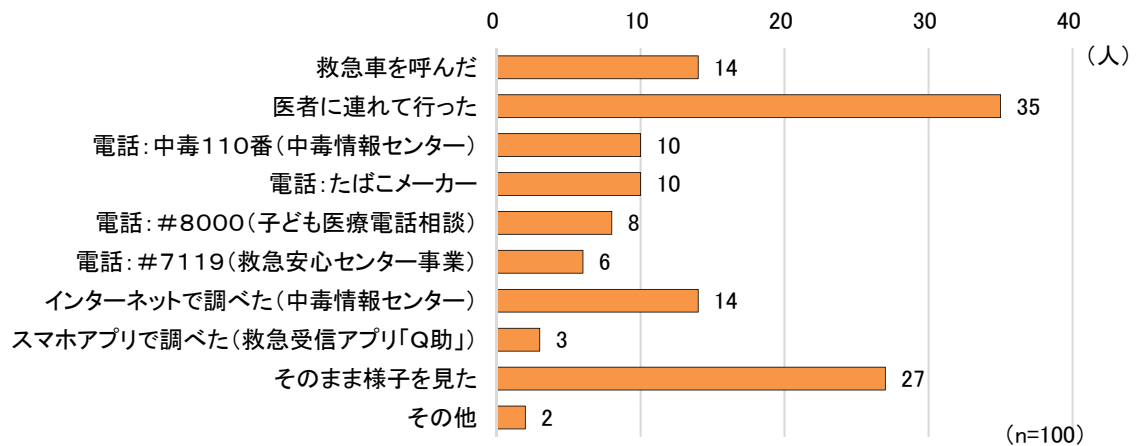


図 12 誤飲しそうになった時の処置（複数回答）

3. 主な事故事例

消費者庁・独立行政法人国民生活センターに、医療機関ネットワーク事業⁴を通じて寄せられた事故情報から、主なたばこの誤飲事例を示します。

【事例 1 / 使用前の加熱式たばこ】

朝、一人で起き出して、リビングで遊んでいた様子。保護者は隣の部屋で眠っていて見ていなかった。30 分後に麦茶を飲ませたら、すぐに嘔吐^{おうと}して茶色いものが出てきたが、麦茶だと思っていた。2 時間後に 2 度目の嘔吐^{おうと}があり、床にたばこのフィルターが落ちていることに気付いた。いつもはリビングの出窓に置いているが、たまたま棚の上に置いていたたばこに手が届いてしまったようだ。加熱式たばこの箱に 1 本残っていたが、もう 1 本がなくなっていてフィルターだけが床に落ちていた。

（令和元年 5 月、1 歳男児、要入院）

【事例 2 / 加熱式たばこの吸い殻】

吸った後の吸い殻を詰めた加熱式たばこの空き箱を、たまたまリビングのごみ箱に捨てていた。保護者が着替えるために少し目を離れた間、リビングに子どもが一人だけでいた。保護者が戻るとごみ箱が倒れていて、たばこが床に散らばっていて、子どもの

⁴ 「医療機関ネットワーク事業」とは、参画する医療機関（令和 2 年 10 月 1 日時点で 30 機関が参画）から事故情報を収集し、再発防止にいかすことを目的とした消費者庁と独立行政法人国民生活センターとの共同事業（平成 22 年 12 月運用開始）。ただし、医療機関数は変動している。

手にもたばこの葉がついていた。すぐに口の中を見ても、たばこの葉は特に見当たらなかったが、誤飲を疑って受診。
(平成 31 年 3 月、0 歳男児、要通院)

【事例 3／使用前の紙巻たばこ】

保護者が家事で目を離した 2～3 分の間に、年上の子と別室で遊んでいた子どもが、保護者の^{かばん} 鞆 からたばこを箱ごと取り出し、中身を出して口に 1 本くわえていた。床にはたばこの葉が散乱していた。指を入れて 1 回嘔吐^{おうと}させ、心配で救急を受診した。
(平成 31 年 3 月、1 歳男児、即日治療完了)

【事例 4／たばこが浸っていた液体】

玄関に置いているたばこの吸い殻入れに使用していたコーヒー缶を飲んだと、本人が話した。保護者や年上の子は別の部屋にいて見ていない。たばこの臭いがして、吐き気があるため受診。胃の洗浄後、牛乳を飲ませて 3 時間経過観察を行う。ニコチン中毒の症状がないため帰宅。
(令和元年 11 月、2 歳男児、即日治療完了)

【事例 5／外出時】

保護者と散歩している時に、ベンチの下に落ちていた吸い殻を口に入れている様子があった。食べたかもしれないと思い、口の中に手を入れたら、たばこの中身と包み紙が出てきたため受診。
(令和 2 年 2 月、1 歳男児、治療を必要としない)

4. 事故防止のためのアドバイス

アンケート調査によると、保護者がたばこを喫煙する家庭では、子どもがたばこや吸い殻を誤飲した経験があるとの回答が 500 人中 100 人と 2 割にのぼりました。特に、加熱式たばこにおいて、たばこ、吸い殻共に誤飲しそうになった割合が高い結果にありました。子どもが誤ってたばこを食べたり、ニコチンの溶け出した液体を飲んだりすると中毒を起こす危険性があります。子どもがたばこや吸い殻を誤飲することがないように、周囲の大人が以下の点に注意することが必要です。

(1) 家では禁煙を心掛け、子どもの目の前でたばこを吸わないようにしましょう。

子どもの前でたばこを吸わないという人が約半数にとどまることが、アンケート調査から分かりました。他方で、自宅では吸わない、吸い殻を捨てない、という人もいました。

子どもの周囲にたばこがあることで、誤飲のリスクが発生します。また、保護者が喫煙する姿を目にすることが、たばこを口に入れてしまうことに関係している可能性もあります。少なくとも、家の中では禁煙することが最も有効です。

（２）子どもの手の届く場所にたばこや灰皿などを置かないようにしましょう。

たばこや吸い殻の誤飲は、テーブルの上や灰皿に置かれたもので多く発生していました。アンケート調査によると、子どもの手の届く所に置かないようにしているという人が約７割にとどまることも分かりました。ただし、バッグや鞆^{かばん}の中、棚の上など高い所、引き出しの中などにしまっているつもりでも、子どもの成長に伴い手が届くようになったり、開けられるようになったりします。油断をしないで、たばこは子どもの手の届かない場所に保管し、吸い殻や灰皿も喫煙後すぐに子どもの手の届かない場所に片付けましょう。

中でも、加熱式たばこは火を使っていないために、そのままごみ箱に捨てられる傾向にあるため、吸い殻を捨てる場合はごみ箱を置く場所にも注意したり、ビニール袋などに入れて口を縛るようにしたりしましょう。

特に、０～２歳の乳幼児がいる家庭では置き場所など取扱いに注意をしてください。

（３）飲料の缶やペットボトルを灰皿代わりに使用することはやめましょう。

残っている飲料にニコチンが溶け出した灰皿の液体などは、ニコチンが特に吸収されやすくなっているため危険です。たばこや吸い殻の誤飲が多い０～１歳児に対して、２歳以上の子どもでは大部分がたばこの浸っていた液体の誤飲でした。たばこが捨てられていると知らずに口にする事故を防ぐため、周囲の大人が飲料の空き容器を灰皿代わりに使用して吸い殻を捨てることは絶対にやめましょう。

５． 誤飲した場合の対処法

たばこが浸っていた液体を飲んだ場合、普段と違う様子がある場合は、何も飲ませず、直ちに医療機関を受診しましょう。

乳幼児がたばこを誤飲した場合は、口の中を確認してたばこがあるようなら取り出します。水や牛乳などは飲ませないでください。実際に誤飲した場面を見ていないために誤飲した量が分からない、というような場合は医療機関や公益財団法人中毒情報センターに電話で相談することもできます。

万一来に備え、応急手当の方法や相談窓口を確認しておきましょう。

■子ども医療電話相談（お住まいの地域により対応時間が異なります） #8000

■「公益財団法人日本中毒情報センター 中毒 110 番電話サービス」

- ・大阪中毒 110 番（365 日 24 時間対応） 072-727-2499
- ・つくば中毒 110 番（365 日 9 時～21 時対応） 029-852-9999
- ・たばこ誤飲事故専用電話（自動音声応答による情報提供） 072-726-9922

6. 参考

独立行政法人国民生活センター「乳幼児による加熱式たばこの誤飲に注意」（平成 29 年 11 月 16 日）

http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20171116_2.html

公益財団法人日本中毒情報センター「加熱式たばこの相談件数が増えています！」
（平成 30 年 8 月 3 日）

<https://www.j-poison-ic.jp/report/180803/>

厚生労働省「2018 年度 家庭用品等に係る健康被害病院モニター報告」

<http://www.nihs.go.jp/mhlw/chemical/katei/hospital/H30.pdf>

公益社団法人日本小児科学会 Injury Alert（傷害速報）

「No. 063 加熱式タバコの誤飲（事例 2）」

<https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/index.php?did=78>

「No. 063 加熱式タバコの誤飲（事例 1）」

<https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/index.php?did=77>

一般社団法人日本たばこ協会「誤飲防止啓発活動」

<https://www.tioj.or.jp/activity/manners.html>

<本件に関する問合せ先>

消費者庁消費者安全課

TEL : 03 (3507) 9137 (直通)

FAX : 03 (3507) 9290

URL : <https://www.caa.go.jp/>

専門家のコメント「子どもをたばこの誤飲から守りましょう！」

順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科 科長 杉田学教授
(一般社団法人日本中毒学会 理事)



■たばこの害及び乳幼児がたばこを誤飲した場合の危険性

たばこを誤飲することによって、含まれるニコチンによる急性の中毒が起こる危険性があります。血中のニコチン濃度が高いと、血圧の低下や不整脈などの循環器系の症状や痙攣（けいれん）（ひきつけ）などが、誤飲後数時間以内に出現することがあります。

■臨床現場でのたばこの誤飲症例

しかし幸いなことに、実際には乳幼児がたばこを誤飲して命にかかわるような重篤な症状をきたすことは稀です。それは、ニコチンの強い催吐作用により即時に嘔吐（おうと）してしまうために、多量に摂取することが難しいこと、ニコチンは酸度の高い胃内では吸収が遅いことなどによります。

ただし、たばこが浸っていた液体を誤飲した場合は、この限りではありません。ニコチンが大量に抽出された液体では少しの量でも中毒症状が容易にあらわれ大変危険です。もちろん、抽出液においても決しておいしいものではないので大量に飲むことは少ないのですが、ジュースのような口当たりのよい飲料が入っていた容器に、灰皿代わりとして吸い殻を捨てたような場合は要注意です。

■誤飲してしまった場合の家庭での応急処置

たばこを誤飲してしまったかも、というような場合には、慌ててパニックにならないよう、まずは冷静に対応してほしいと思います。子どもがどういう状況でたばこを食べたのか、どれくらいたばこがなくなっているのかを確認し、口の周りや口の中を観察して、口の中に残っていれば、拭ってあげましょう。何か他のものを誤飲しているかもしれませんので、窒息のリスクも伴うことに気を付けてください。その後、うがいをさせてあげましょう。

たばこに含まれるニコチンには催吐作用があります。子ども自身が吐きたいようなら、吐かせてあげてください。ただし、保護者が指を差し入れてまで無理に吐かせる必要はありません。

水や牛乳などを無理に飲ませることもないでしょう。泣いたり、吐いたりしているときに何かを飲ませることで、誤嚥（ごえん）させてしまう危険性もあります。

たばこの誤飲が疑われるような場合は、まずは子ども医療電話相談（＃8000）や救急安心センター事業（＃7119）に落ち着いて電話し、子どもの症状から受診の有無を

相談してください。受診の必要があるようなら、直ちに医療機関を受診しましょう。

■保護者へのメッセージ

私の病院にもたばこを誤飲したお子さんが来院することがあります。特に何も処置しないで経過観察となることがほとんどです。ただし、中毒量以上を摂取した場合や、重篤な症状を認める場合には、ニコチンには解毒薬などはないため、起こってしまった不整脈などの中毒症状に対処することになります。胃洗浄などを行う医療機関もありますが、これは乳幼児にとっては苦痛を伴う負担の大きな治療であることは言うまでもありません。

たばこに限らず、子どもには害になるものがたくさんあります。自分達の目が届かないところで食べてしまうかもしれないということを意識してください。包丁を机に置いておくのと変わりません。保護者の方には、子どもにとって危険なものはエリアを分けるなど、フリーアクセスとなるような状況を作らないよう、十分に気を付けていただきたいと思います。

医療機関から寄せられた事故情報の概要

消費者庁・独立行政法人国民生活センターには、医療機関ネットワーク事業を通じて、10歳以下の子どもがたばこを誤飲したという事故情報が、平成28年1月から令和2年12月末までの5年間に258件寄せられています⁵。

たばこのタイプ別に見ると、紙巻たばこが178件と多くなっていますが、加熱式たばこでも78件発生していました（図1）。平成30年以降の3年間は、加熱式たばこの割合が約半数を占めています。以下、紙巻たばこと加熱式たばこによる誤飲事故を見ていきます。

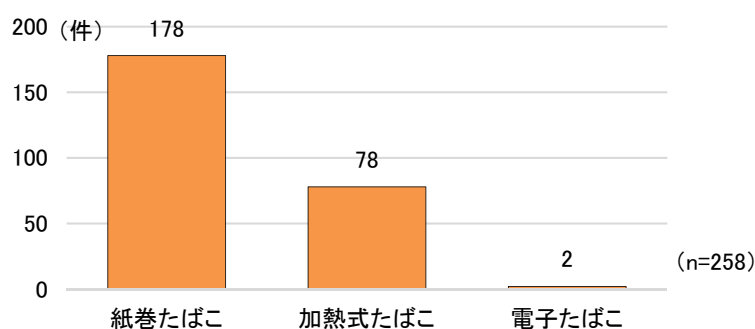


図1 たばこのタイプ別事故件数

誤飲したたばこの状態が分かっている242件を見ると、使用前のたばこは177件（73%）を占めており、吸い殻は52件（22%）でした。また吸い殻を入れた飲料の缶やペットボトルを口にしてしまい、たばこが浸っていた液体を誤飲したという事故も13件（5%）発生していました（図2）。たばこのタイプ別と合わせて見ると、加熱式たばこでは吸い殻を誤飲している割合が高いという特徴がありました（図3）。

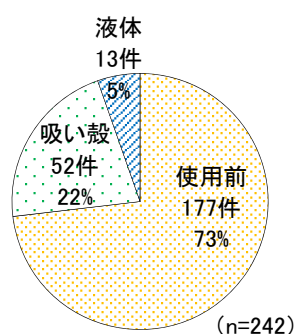


図2 たばこの状態別事故件数

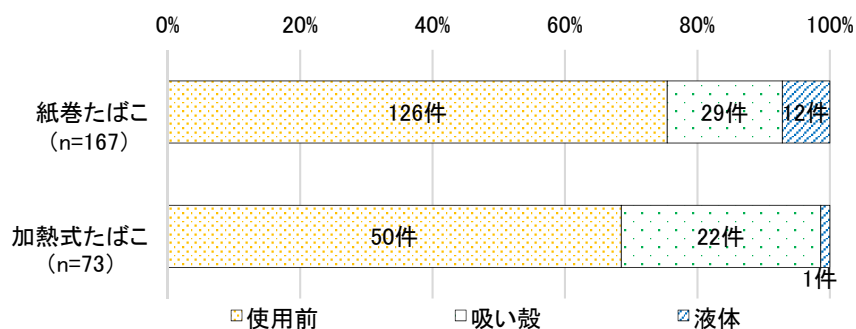


図3 たばこのタイプ別・状態別事故件数

⁵ 件数は本件のために消費者庁が特別に精査したもの。なお、「たばこ」の事例のうち、「加熱式」及び「電子」やその製品名が書かれていない事例を「紙巻たばこ」とした。

年齢別に見ると、0歳 115 件、1歳 132 件と0～1歳で 96%を占めています。たばこのタイプ別と合わせて見ると、2歳以上で発生している事故は、たばこが浸っていた液体を誤飲した事例が主でした（図4）。性別では、男児 154 件、女児 104 件と、男女比が6：4でした（図5）。

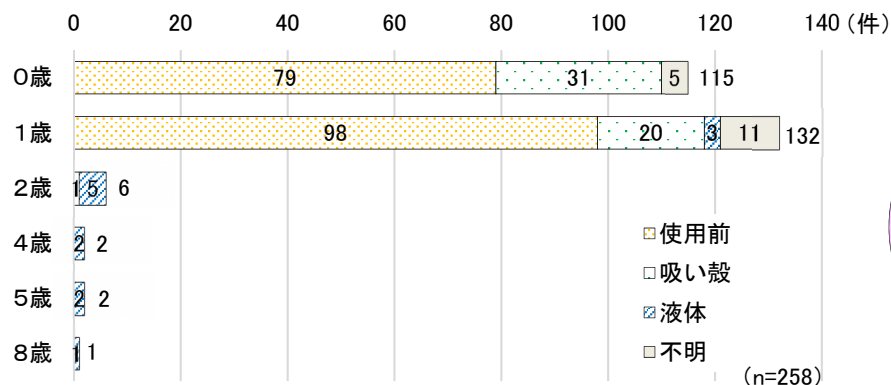


図4 年齢別事故件数

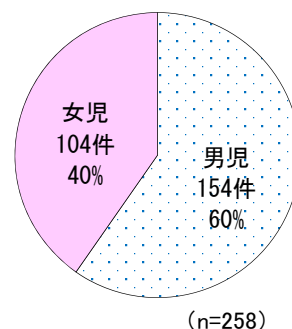


図5 性別事故件数

事故が発生した時刻が分かっている 198 件を見ると、6～8時の35件が最も多く、次いで 18～20 時 33 件、20～22 時 32 件と続きます。事例を見たところ、保護者の起床前や、保護者が家事や用事で忙しく、目が届きにくくなる時間帯に多く発生しています（図6）。

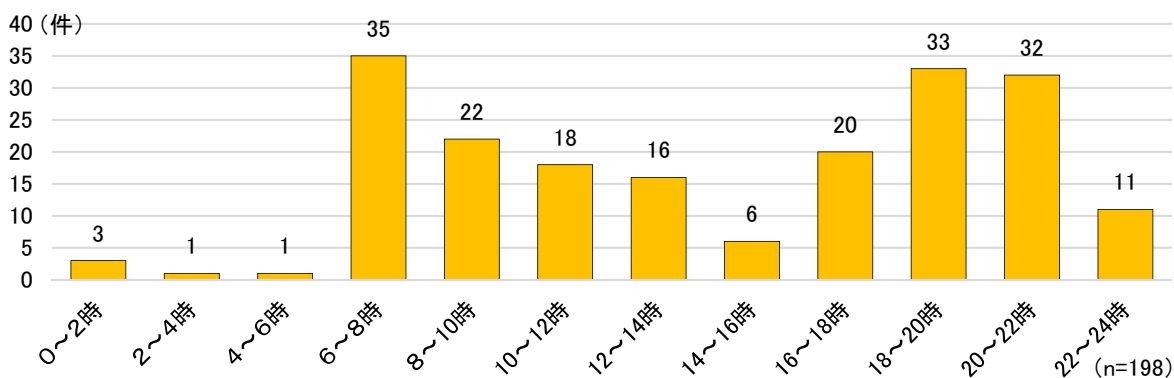


図6 時間帯別事故件数

たばこや吸い殻が置かれていた場所が分かっている 151 件を見ると、テーブルの上が 41 件と最も多く、目につく場所にあるたばこを誤飲していることが分かりました。一方、バッグやかばんの中 28 件、棚の上など高い所 9 件のように、保護者はしまっておいたつもりでも、取り出したり手が届いてしまったりする事例が見られます。また、飲料の缶やペットボトルなどを灰皿代わりにして吸い殻を入れていると、誤ってそれを口にしてしまう、という事例も 13 件発生しています（図7）。

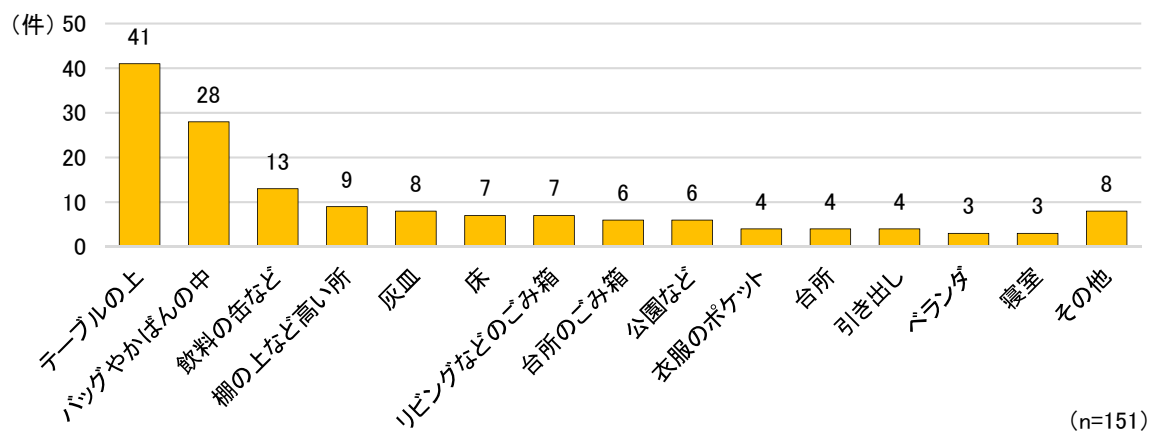


図7 置き場所別事故件数

治療の必要性と処置見込みを見ると、治療を必要としない事例が 81 件（31%）、即日治療完了 98 件（38%）と合わせて 7 割近くが軽い処置で済んでいましたが、通院を必要とする事例が 56 件（22%）、入院を必要とする事例も 23 件（9%）ありました（図 8）。

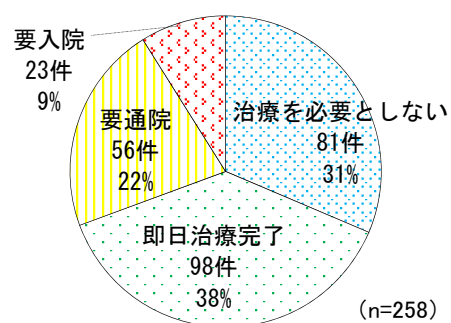


図8 治療の必要性・処置見込み

消費者へのアンケート調査集計結果

実施期間：令和3年1月29日（金）～1月31日（日）

調査方法：インターネット調査

調査対象：0～6歳の子どもと同居しており、現在たばこを喫煙する人

対象人数：500名

回答者：20～60歳代

Q1. 現在、あなたが吸っているたばこ製品の種類は？（いくつでも）

		回答数	%
全体		500	100.0
1	紙巻たばこ	340	68.0
2	加熱式たばこ	253	50.6
3	電子たばこ	61	12.2
4	その他	0	0.0

Q2. <Q1で「1、2」と回答した方へ> あなたは通常、1日に何本吸いますか？本数を記入してください。（吸うときの1日の本数をお答えください。）

【紙巻たばこ】

		回答数	%
全体		340	100.0
1	1－10本	209	61.5
2	11－20本	122	35.9
3	21－30本	8	2.4
4	31－40本	1	0.3
5	41本以上	0	0.0
平均値			11.44
最小値			1.00
最大値			40.00

【加熱式たばこ】

		回答数	%
全体		253	100.0
1	1－10本	181	71.5
2	11－20本	65	25.7
3	21－30本	5	2.0
4	31－40本	2	0.8
5	41本以上	0	0.0
平均値			9.78
最小値			1.00
最大値			40.00

Q3. 自宅で吸い殻を捨てる時、どこに捨てていますか？（火が消えた後、他のごみ箱に入れる、台所のごみと一緒にしている場合は、両方を回答してください）（いくつでも）

【紙巻たばこ】		回答数	%
全体		340	100.0
1	灰皿	249	73.2
2	缶など（たばこの吸い殻専用）	63	18.5
3	リビングや自室のごみ箱	15	4.4
4	台所のごみ箱	21	6.2
5	飲料の缶やペットボトル	12	3.5
6	携帯用灰皿	57	16.8
7	その他	1	0.3
8	自宅では吸わない／自宅では捨てない	31	9.1

【加熱式たばこ】		回答数	%
全体		253	100.0
1	今吸っている箱の空きスペース	70	27.7
2	灰皿	98	38.7
3	缶など（たばこの吸い殻専用）	47	18.6
4	リビングや自室のごみ箱	50	19.8
5	台所のごみ箱	47	18.6
6	飲料の缶やペットボトル	15	5.9
7	携帯用灰皿	38	15.0
8	その他	2	0.8
9	自宅では吸わない／自宅では捨てない	14	5.5

Q4. <Q3で「3、4」と回答された方へ> ごみ箱に捨てる際、どのように捨てていますか？（1つだけ）

【紙巻たばこ】		回答数	%
全体		32	100.0
1	そのまま	14	43.8
2	ビニール袋などに入れて	14	43.8
3	紙などに包んで	3	9.4
4	その他	1	3.1

【加熱式たばこ】		回答数	%
全体		84	100.0
1	そのまま	60	71.4
2	ビニール袋などに入れて	18	21.4
3	紙などに包んで	5	6.0
4	その他	1	1.2

Q5. 今までにお子さんが「たばこや吸い殻を口に入れたこと」がありますか？（１つだけ）

【たばこ】		回答数	%
全体		500	100.0
1	ある	62	12.4
2	入れかけたことがある	32	6.4
3	ない	406	81.2

【吸い殻】		回答数	%
全体		500	100.0
1	ある	54	10.8
2	入れかけたことがある	28	5.6
3	ない	418	83.6

Q6. <Q5で「1、2」と回答した方へ> それはお子さんが何歳の時でしたか？（いくつでも）

		回答数	%
全体		100	100.0
1	0歳	20	20.0
2	1歳	34	34.0
3	2歳	27	27.0
4	3歳	10	10.0
5	4歳	9	9.0
6	5歳	5	5.0
7	6歳	2	2.0
8	その他	0	0.0
9	不明	6	6.0

Q7. <Q5で「1、2」と回答した方へ> それはどこに置いてあったものでしたか？（いくつでも）

【たばこ】		回答数	%
全体		94	100.0
1	テーブルの上	69	73.4
2	衣服のポケット	15	16.0
3	バッグや鞆の中	11	11.7
4	棚の上などの高い所	14	14.9
5	引き出しの中	4	4.3
6	その他	1	1.1

【吸い殻】		回答数	%
全体		82	100.0
1	灰皿	47	57.3
2	缶など（たばこの吸い殻専用）	16	19.5
3	リビングや自室のごみ箱	19	23.2
4	台所のごみ箱	8	9.8
5	飲料の缶やペットボトルの中	5	6.1
6	その他	1	1.2

Q8. <Q5で「1、2」と回答した方へ> その時、どのような処置をしましたか？（いくつでも）

		回答数	%
全体		100	100.0
1	救急車を呼んだ	14	14.0
2	医者に連れて行った	35	35.0
3	中毒１１０番（中毒情報センター）に電話で相談した	10	10.0
4	たばこメーカーに電話で相談した	10	10.0
5	#８０００（子ども医療電話相談）に電話で相談した	8	8.0
6	#７１１９（救急安心センター事業）に電話で相談した	6	6.0
7	電話で相談した	0	0.0
8	インターネットで調べた：（調べたサイト：中毒情報センター）	14	14.0
9	スマホアプリで調べた：（使用したアプリ：救急受信アプリ「Ｑ助」）	3	3.0
10	インターネット等で調べた	0	0.0
11	そのまま様子を見た	27	27.0
12	その他	2	2.0

Q9. たばこや灰皿などを、お子さんの目に触れるところ、手の届くところに置かないようにしていますか？（１つだけ）

		回答数	%
全体		500	100.0
1	置いていない	365	73.0
2	時々置いている	70	14.0
3	置いている	64	12.8
4	その他	1	0.2

Q10. お子さんの前でたばこを吸うことがありますか？（１つだけ）

		回答数	%
全体		500	100.0
1	吸わない	257	51.4
2	時々吸うことがある	160	32.0
3	吸っている	82	16.4
4	その他	1	0.2